

地域にとけ込み、地域に学び、 地域に貢献できる人材の育成を目指して

県立大網高等学校校長 やまもと 山本 あきひろ 昭博



1 はじめに

本校は、平成20年4月1日に県立白里高等学校と県立山武農業高等学校が統合し、県立大網高等学校となり今年度で15年目を迎える。

設置学科は、農業科、生物工学科、食品科学科、普通科の4学科で、各学年4クラス計12クラスの規模である。

農場は、学校から5.5km離れた遠隔地に「中正（ちゅうせい）農場」という東京ドーム2.5個分の広さの実習地があり、生徒は農場や校内の生物工学科棟、食品科学科棟で農産物の栽培や乳牛の飼養管理、ジャムや味噌等の製造実習、植物バイオテクノロジーや実験動物等の学習に励んでいる。

本校の特色を生かし、普通科の生徒にも農業についての理解を深めてもらえるよう、農業関係の行事と一緒に参加したり、農産物や加工品を購入したりできるようにしている。また、来年度、普通科の2年生には、選択で農業科目を学習できるように教育課程を編成している。

今回、「地域との連携」に絞って、昨年度と今年度の取組の一部を紹介させていただく。

2 昨年度の取組から

(1)大網駅高架下壁画プロジェクト

白里高校と山武農業高校が統合した記念に、大網駅高架下に壁画が描かれたのは、今から13年前と聞いている。年数が経過し色あせてきたので、塗り直そうと2年前から学校

関係者と地域の方々が話し合い、計画をしてきたが、コロナの影響で令和2年度での実施は、かなわなかった。

昨年度（令和3年度）、美術部の生徒を中心にデザインを考えることから準備を進めた。7月12日から本格的な作業が始まり、生徒延べ約400名、PTAや地域の方々延べ約50名の思いと力を集結させて、7月23日に完成させることができた。

コロナ禍の中にあって、壁画の完成という一つの目標に向かって、生徒、地域の方々が協力し、汗を流して形あるものを残せたことは、生徒にとって一生の思い出になったことと確信している。



市のキャラクター「マリン」を描く

(2)ふるさと収穫祭

12月25日（土）に大網白里アリーナを会場に「ふるさと収穫祭」と称して、本校と市商工会の共同企画により、本校の農産物や加工品、地元産品を販売するイベントが開催された。販売時間は午前9時から正午までの3時間だったが、地域の方々にたくさん来場して

いただき、生徒もお客様とコミュニケーションを図りながら一生懸命に販売していた。

3 今年度の取組から

(1)小学校との連携

昨年度からの継続となるが、季美の森小学校や大網東小学校と連携し、本校生徒が先生役になり、小学生にトウモロコシの種まきや、サツマイモの苗のさし方等を教えた。生徒は、小学生の興味や関心をどのように引き出すか作業を行う前に目的や方法を、自ら考えたイラストや紙芝居などを用いて、懸命に説明していた。また、小学生からの質問などもあり、人に伝えること教えることの難しさを体験できる、貴重な学習の機会となっている。

(2)ホテルポートプラザちばとの連携

6月18日（土）に公立学校共済組合千葉支部直営施設のホテルポートプラザちばを会場として「ホテルde朝市」のタイトルで10時から11時30分まで農産物や加工品等の販売を行った。この販売会は、大網高校だけではなく千葉県高等学校教育研究会農業部会と農業関係高校が行った取組である。コロナ禍で3年ぶりの開催となり、都合15回目となる。当日は、たくさんのお客様においでいただき、10分足らずで完売となる学校もあり盛況のうちに終了した。

(3)JR東日本千葉支社との連携

この連携は、今回が初めてとなる。大網高校単独ではなく、県内の農業関係高校全体で取り組んだ。6月25日（土）JR千葉駅の中央改札を抜けたコンコースにおいて、学校ごとに栽培した野菜や草花、ジャムやパン等を並べ11時から13時までの2時間販売を行った。販売開始から、各校のブースがお客様に囲まれるような賑わいで、すべての学校が完売となった。販売した農産物も加工品も、生徒が

学習した成果物であり、販売実習は、自分が学習したことを説明し、披露する大切な機会となっている。



JR千葉駅での「生産物販売実習会」風景

(4)地域企業との連携

継続している取組である。食品科学科では、2年生の生徒が夏季休業を利用し、地域の企業に校外実習として実際の現場で体験させていただいている。期間は1週間で、食品に関する実習や管理を体験することにより、学習の深化や業界の実態把握、自己の進路について考える機会にしている。

4 おわりに

本校は、3年間の学びを通して、失敗を恐れず、辛いことから逃げずに、何事もやり遂げる強い気持ちと自分を信じる勇気を育みながら、自己肯定感を強く持ち、地域に貢献できる人材の育成を目指して、様々な取組にチャレンジしている。

生徒は、地域との連携で体験を通し、コミュニケーションを図る中で、本校が地域の方々に受け入れられていることや、期待されていること、応援されていることを実感し、自己形成や自己実現につながっている。

これからも、地域にとけ込み、地域に学び、地域を支える人材の育成に向けた教育活動を推進していく。